

情報のプロはこう読む！新聞の正しい読み方(第8回)

紙面にニュースの「格付け」があるって知ってます？(下)

2019.02.21

これまで、ほとんどの人は「長い記事だから長い見出しが付いているのだろう」と考えていたのではないのでしょうか。しかし、前回説明した「格付けのルール」を知って紙面を改めて観察すると、見出しの長さの記事の長さは必ずしも比例していないことが分かるはずです。



実際、頻繁ではないものの、記事の字数は少ないのに、妙に長い見出しが付いている記事を見かけることがあります。例えば15～20行くらいしかない記事なのに、見出しが3段立っているのです(見出しは業界用語では「立つ」「立てる」と表現します)。

当然、かなり縦長のレイアウトになります。記事は1段が5～6行しかないはずですが。事情を知らない人が見ると「たまたまそうなっただけだろう」と思うでしょうが、そうではありません。「このニュースは重要度3だ」という判断がまずあって、それを表すために、わざわざ縦長のレイアウトにして「3段の見出し」を立てているのです。

こうしたケースは、ニュースが締め切り直前に飛び込んできたときなどに生じます。

ニュースの第一報が、締め切り30分前にもたらされたとしましょう。編集作業を考えると、記者が原稿を書くのに与えられた時間は、10分もありません。経験が浅い記者であれば、記事を成り立たせる最低限の要素である「5W1H」を詰め込んだ文を15～20行書くのがやっとでしょう。普通は事件の背景や社会への影響などを書くべきところですが、そんな暇もないわけです。

時間がないときは3段以上の記事だけを読む… 続きを読む